

陸軍少飛平和祈念の会、会報 No26 号

2021(令和 3)年 8 月

◎本会のHPは、<http://sho-hi.sakura.ne.jp/> です。どうぞご覧ください。
◎月例会は、開催を自粛させていただいております。
◎経費節減のため、会報をメール配信に切り替えています。パソコンのメールアドレスを、heiwakinen@sho-hi.jp までお知らせください。

7 月に「元少年飛行兵ビデオ証言第二集」を刊行し、会員及び支援者の方々にお送りしたところ、多くの方々からご支援を頂き、励ましと期待のお言葉も頂きました。元少飛の方々がお元気なうちに作業を進めたいと思います。よろしくご理解をいただきたく思います。

(1) NHK「ファミリーヒストリー」の放送決定。どうぞご覧ください。

本会が取材協力を続けてきました NHK「ファミリーヒストリー」。今回は所ジョージさんの回です。所ジョージさんのお父様が、第 14 期乙の元少年飛行兵で、昭和 18 (1943) 年 4 月に開校した岐阜陸軍航空整備学校に入校し、卒業して戦地に向かっていました。

少年飛行兵学校の整備生徒が学んだ状況や出征した南京の様子などの情報を求めている、本会の第 11 期の鈴木善雄さんや 17 期の佐藤昭さん、瀬尾敏夫さんなどに協力していただきました。

番組担当者から放送日が、8 月 10 日の 17:30~20:43 に確定した、皆様によりしくお伝えくださいと連絡がありました。どうぞご覧いただきたいと思います。

(2) 8 月 20 日、第 17 期金徳泰さんのお話を聞きます

令和 3 年 8 月 20 日「元少年飛行兵ビデオ証言第一集」に収録されている少飛 17 期金徳泰さんのお話を聞く会を開催します。この催しは、大竹財団の助成事業の一環として NPO 法人 FJK (フォーラム自治研究) と共催して実施します。場所は千代田区神田佐久間町 1-11-7、千代田区和泉橋区民館、午後 2 時 30 分から約 2 時間、無料です。聴取をご希望の方は直接会場にお越し下さい。

(3) 新入会員です。

埼玉県熊谷市にお住いの松村智彦さんです。26 歳。桶川の「旧陸軍桶川

飛行学校を語り継ぐ会」に在籍しながら、桶川分教場や熊谷飛行学校のことを調べているそうです。元少飛の方の聞き取り等も行っているとのこと。「桶川飛行学校平和祈念館」との協力等に力を貸していただけそうです。どうぞよろしくお願いします。

(4) ご支援ありがとうございます。

「元少年飛行兵ビデオ証言第二集」の刊行以来、寄付、会費、本代や郵送費として、多くの現金、為替、切手が寄せられています。全員の方々に個々に御礼を申し上げるべき所ですが、会報にお名前を載せて「感謝の意」を申し上げ、皆様のご支援を「確かに受領した」ことをご報告させていただきます。ご支援いただいた現金、為替、切手の総額は183,030円（7月30日現在）にもなりました。心から感謝申し上げます。これで「元少年飛行兵ビデオ証言」の「第4集」「第5集」の刊行に資金の目途がついたと申し上げます。ありがとうございました。

送ってきて頂いた方々は以下の通りです（確かにお預かりしました）。
広島市の鎌田祐二さん、藤沢市の原田萬喜子さん、新潟市の丸山仁さん、飯能市の金崎豊さん、新潟市の樋浦昭二さん、さいたま市の瀬戸山定さん、入間市の後藤昭一さん、町田市の滝波登さん、狭山市の立花壯介さん、武蔵野市の永井章子さん、立川市の檜崎由美さん、さいたま市の松本恒三郎さん、練馬区の三島康雄さん、柏市の岸佳子さんから 105,800 円の現金を送っていただきました。

逗子市の杉本明さん、武蔵村山市の石川清治さん、市川市の瀬尾敏夫さん、練馬区の高林萬津樹さん、武蔵村山市の青木武門さん、横浜市の佐藤昭さん、板橋区の久保田経三さん、新潟塩沢町の細矢利貞さん、中野区の稲葉光明さん、武蔵村山市の石川伊三郎さん、立川市の嶋津隆文さん、杉並区の川村栄一さん、横浜市の青木勇さん、町田市の小栗慎次郎さん、新潟市の加藤かよさん、青梅市の中部喜和さん、町田市の池田正義さん、蓮田市の鈴木裏さんから 51,030 円が預金口座に振り込まれています。

武蔵野市の平林宣広さん、立川市の竹内良男さん、熊谷市の松村智彦さん、愛知県一宮市の佐藤爵優さん、文京区の泉本和秀さん、東松山市の石田義明さん、多摩市の浅倉義信さん、三鷹市の高橋義人さん、新潟市の嘉瀬清さん、柏市の岸佳子さん、西宮市の宮島茂さん、東久留米市の高園真理子さん、立川市の吉田直哉さん、鳥取県伯耆町の細田京香さん、大阪市の原雄一さん、立川氏の竹内良男さん、札幌市の加藤正俊さんから 26,200 円の切手を送っていただきました。

ご支援に感謝してご報告し、御礼を申し上げます。

(5)「陸軍航空通信学校」の跡地（水戸市住吉町 269-3）訪問



令和3年7月1日、水戸の陸軍航空通信学校の跡地を訪ねました。

左上の写真は、平和の礎（へいわのいしじ）と名付けられた「陸軍航空通信学校跡」の石碑です。

道路の写真は、航空通信学校前の通りだったと思われる道で、周辺はまだ農地が点在する住宅地でした。学校跡地には「茨城音楽専門学校」が建てられていました。（写真左下）



碑文は以下の通りです(原文ママ)

「この地に陸軍航空通信学校が開校されましたのは、大陸での風雲なお収まらぬ昭和十五年（一九四〇年）でありました。

開校と同時に、国家の安泰とアジアの平和を願う多くの若人達は、競ってこの学校に馳せ参じ、日夜、航空通信技術の習得とその訓練に励み、大空へと羽搏いて行ったのであります。

共に笑い、共に泣き、共に耐え、共に喜びを分かち合ったこの地に、今遠くそれえの思いを馳せ、平和への願いをこめて、この碑を建立するものであります。

建立に当たり、学校関係生存者をはじめ、多くの方々のご賛同とご協力を得ましたこと付記いたします。

昭和五十八年(一九八三年)九月吉日 水戸つばさの塔奉賛会





「水戸つばさの塔」(写真左)は、水戸飛行場と水戸陸軍飛行学校の地に建てられた平和祈念の碑です。

また、陸軍航空通信学校の校門は、ひたちなか市の那珂湊運動公園に移築され保存されていました

「陸軍航空通信学校」は、他の飛行学校と違って「水戸」という地名はつかないんだよ。何故なら「陸軍航空通信学校」は全国に一つだったから。卒業生の少飛11期瀬戸山定さんが話されていました。確かに東京陸軍少年飛行兵学校、所沢陸軍航空整備学校、熊谷陸軍飛行学校など、他の学校には地名が頭に付いています。



「陸軍航空通信学校」は日中戦争の拡大などにより航空通信の強化のため、昭和15(1940)年8月に茨城県那珂郡(現ひたちなか市)の水戸陸軍飛行学校内に開設されましたが、同年10月に茨城県東茨城郡吉田村(現水戸市住吉町)に新築移転しました。

学校設立の目的は、航空通信に関する教育と研究とされています。航空士官学校の卒業生である士官候補生や航空通信部隊の下士官クラスなども教育対象の学生とされていました。人数的には少年飛行兵及び少年飛行兵になる生徒が中心になっていて、少年飛行兵学校で「通信」に分科された生徒は、上級校として「陸軍航空通信学校」に進み、一年間航空通信の理論と技術を学びました。

昭和18(1943)年9月、「陸軍航空通信学校」は、兵庫県加古郡の加古町と尾上村(ともに現加古川市)に、「加古川教育隊」「尾上教育隊」を編成し、少年飛行兵の訓練を行いました。15期乙の北村彦四郎さんは「昭和18年10月東京陸軍少年飛行兵学校に入校し、3日間適性検査と身体検査を受け、八戸、加古川、尾上といった『地名』で行先が分けられた」と話しています。15期乙の「通信生徒」は、少年飛行兵学校の基礎課程を省略して、直接、上級校である陸軍航空通信学校の「教育隊」に配属されました。